

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）		
考える子	1	一人で、みんなで考えられる子	各項目の最後に、2学期に取り組んでいくことを_____で記載してあります。 赤文字は、特に力を入れて取り組んでいく内容です。
心の美しい子	2	自他の良さを感じられる子	
たくましい子	3	1人で、みんなで心と身体をきたえる子	

今年度の重点目標			評価平均	成果と課題	
①	学ぶ楽しさが味わえる授業		2.7 B	①今始まっている活動やこれから始まる学習についても児童が「やってみたい」と思ったことを主軸に活動をきめ出し、学習を深化させていく。 ②仲間との関わりをもてる学習形態や環境を心がけていく。クラスの実態に合わせながらも、話し合う場面を多くしていく。 ③クラブ活動や今現在関わってくださっている外部講師だけでなく、人材の発掘も含めてどんどん体験・交流をしていく。	
②	みんなとつながる活動		2.8 B	各学年・学級とも体験的な活動を増やし、地域素材を生かした学習・足を運んで自分の目で見、感じて、触れる学習を取り入れていき、楽しさを感じ、人と触れ合うことをしていきます。	
③	心と身体を育む体験・交流		2.8 B		
学校教育	学習指導	学習の基本	①「神川スタンダード」「学びのユニバーサルデザイン」全学級で大切にする学習の基本の実行	2.8 B	○授業の一時間の学習の流れを提示し、めあてとまとめの板書を書くことのパターン化、ねらいとふりかえりを意識することができてきている。 ●個別の支援が必要な児童が多く、パターンにはまり切れない児童もいる。様々なアプローチを試していく必要がある。 ゴールの分かる、見通しをもった授業展開を心掛けていくが、もう一度「神川スタンダード」「学びのユニバーサルデザイン」を確認し、より多くの授業で実践していきます。
		学習環境	②「多様な学習形態」ペア・グループ・複数教員・教科担任制による児童指導 ③「特別支援学級」「かがわ教室」「日本語教室」「ことばの教室」個に合った学びの場の提供	3.2 A	○ペアやグループでの活動を授業の中で複数回取り入れられるようになってきている。学年内教科担任制、算数コース別学習が取り入れられ、学習ボランティアに支援に入っていただくことができた。支援学級、日本語教室、不登校の居場所となる場所など、個々の児童の状況に、配慮できている。 ●担任一人ができる支援には限界があり、最大限の支援までできていない。 コース別や教科担任制を多くの教科、学年で取り組み、職員が教材研究や児童対応に充てられる時間を生み出し、様々な子どもの学習環境を整えていきます。
		多様な動きの習得	④「身体みがき体操」「運動の場づくり」年間を通して多様な動きの習得 ⑤「「RainboWWalking」を利用した歩行の分析と改善	2.5 B	○体育の授業の導入、朝の会の時間などで簡単な体づくり運動やRainboW Walkingで教わった体操を行えている。体力向上や多様な動きの習得につながる活動を継続してできている。 ●RainboW Walkingで測定したことが、まだ実際には生かしきれていない。 毎朝ではなくても、体づくり運動やRainboW Walkingで教わった体操を定期的に位置付けて実施していきます。
		その他	⑥スタートカリキュラム、MIM、小中連携による「小1の壁」「中1の壁」の最小化 ⑦教科の枠を超え、学年のつながりを大切にした「メディア教育」「安全教育」「性教育」の推進	2.7 B	○教科指導の中で多様な考え方や受け止め方があることを機会あるごとに伝えてきた。これからも自分の思いを出せるようにしたい。MIMも教材の一つとして行っている。 ○安全教育、性教育やメディア教育については、学習や家庭への呼びかけを継続的にできている。 ●MIMを行っているが、音節指導や、語彙の指導を行うことができていないので、ただ行っているだけになっている部分がある。行うからには効果が出るような指導も必要であるとする。 年間計画として学年で実施する内容について、もれのないように実施していきます。
	生活指導	あいさつが響き合う学校	⑧「あいさつ」「なかよし学年」を中核に据えた児童会活動の実施 ⑨家庭・地域・学校が一体となったあいさつ活動	2.7 B	○教師から進んで挨拶するよう心がけている。「ありがとう」「ごめんなさい」なども含め、日常的なやり取りの中の言葉遣いへの意識を高めていきたい。 ●家庭や地域と連携した挨拶活動は行えていないのではないかと感じる。 11月のなかよし月間にて、重点的にあいさつを自分から進んで行うことができるような実施方法を児童会で考えていきます。名前を呼んでのあいさつができるように、靴のかかと部分への記名を家庭に呼びかけていきます。
学級経営		「なかよし週間・月間」 学級づくり・仲間づくり 子ども理解	⑩「なかよし週間・月間」重点的になかよし・自他の良さについて考え深める ⑪「神川っ子」や月に一度、学年の枠を超えた「スーパー神川っ子」で交流を深める ⑫「児童理解の時間」やスクールカウンセラーとの連携による子ども理解 ⑬相談ウィーク（年3回）による情報の共有 ⑭「学びのとびら」「神川ギャラリー」「神川小展覧会」各学年の活動・作品を紹介する場づくり	3.0 A	○学級づくりはなかよし週間・月間に限らず、日ごろから常に自身の中心課題に据えている。 ○月に1回仲良し学級との交流として、スーパー神川っ子の企画、運営を行うことができた。他学年の交流で、他者を意識した行動を見せた児童もいた。活動を励みに登校する子どももみられた。 ○相談ウィークで出た課題を学年で共有することもできた。 ●相談ウィークでは、一人ずつじっくり実施していると時間の確保が難しい。 主体的なスーパー神川っ子の運営を意識していく。相談ウィークでは朝の時間以外に午後の授業時間も使えるように教科指導の工夫を行って時間の確保を行います。
学校運営	家庭との連携	⑮保護者懇談会年2回による情報の共有 ⑯各家庭でのルールを明確にしたメディアコントロール ⑰学級懇談会の充実 ⑱保護者の負担軽減を意識した時代に合わせたPTA活動	2.6 B	○保護者が特別支援学級、日本語教室にも立ち寄っていただけた。 ○学級懇談会では、他の家庭はどうなんだろうと、今悩んでいることについて話題にでき、情報交換になってよかった。 ○PTAのある部においては、ここ数年に渡り無駄な仕事を省き、本当に必要な仕事を焦点化してきたことで、負担軽減につながれていると思う。 ●メディアコントロールについては家庭により取り組みの差を感じる。 メディアコントロールウィークには、期間中に目標を再確認するなど継続的な指導をしています。メディアの使い方については、学級懇談会の議題として扱っていきます。	
	地域連携	⑲「国分寺史跡公園全校清掃」「上田養護学校との交流」等地域とつながる活動 ⑳神川ボランティアや見守り隊との連携 ㉑地域の方から学ぶ、多様なクラブ活動 ㉒神川に学ぶ「ふるさと学習」の継続と深化	2.7 B	○上田養護学校との交流に向けて子どもたちが創意工夫する姿が見られた。同じ神川地区にある養護学校の子どもたちと仲良く、一緒に楽しめるためにはと目標を立てて活動を行うことができた。 ○給食ボランティアの長期的な協力、新たにお迎えした家庭科ボランティア、クラブ活動などで地域の方に学校教育に参加・協力をしていただくことができた。 ○総合的な学習の時間を中心に、地域とのつながりを積極的にもつよう努めている。 ●行事的な取り組みで終わってしまい、地域や社会とのつながり、学習の深まりまでいっていない場合がある。 各学年・学級で特色ある活動を行い、地域素材を生かした学習で達成感を味わうことを目指します。	
	研修	職員研修	㉓・授業改善・地域学習・人権教育・ICT教育の充実	2.9 B	○一つ一つの研修から得られる新しい視点があり、引き続き自分自身が学んでいこうという良い刺激になっている。 ○金曜日の5時間授業が有効。月に1回の研修も負担なくできている。 一学期に行ったICT研修や人権同和研修を生かして、職員がお互いの授業を見合う授業公開を引き続き行っていきます。